□酒井敏雄：**評伝　三好学　日本近代植物学の開拓者**　733+9 pp. 1998. 八坂書房. ￥20,000（税別）.

三好学は矢田部良吉，松村任三に続く東京大学植物学教室第三代の教授であり，日本における植物生理学，植物生態学の創設に尽力したことはよく知られている．この三好の生涯を三好直筆のものを含む膨大な資料にもとづいてまとめあげたのが本書である．

三好学については三好自身による自伝（1936年）や渡邊清彦による『三好学傳』(1941年）があるが，今回の評伝は豊富な資料性に裏付けされ，その生涯全体を通じて詳細に記述されている．本書をして三好は自然史そのものにも並々ならぬ関心を有し，はじめは分類学に進むことを考えていたことが実感できる．文学への趣味も強く，彼の生涯にわたる一般諸誌への寄稿はそうした性向を維持し続けたことを示している．若き頃の諸地方への植物採集にかかわる記述からは鉄道，自動車の未発達な時代の植物採集の苦労が伝わってくるが，三好標本を補完するデータとして大いに役立つものである．天然記念物，サクラやハナショウブについての興味の背景も本書から読みとることができる．今後も新資料が見出される可能性がまったくないわけではないが，三好学の評伝に関して大幅な変更を加えることにはならないであろう．一植物学徒のためにこのような完璧な評伝を精力を尽くして記述した著者に敬意を表したい．

一言私の繰り言を述べるのをお許しいただけるとすれば，本書で言及された矢田部良吉非職の理由は一理あるものの，それだけではない複雑な背景があることである．

（大場秀章）

□知識拓史：**牧野晩成**　504＋x pp. 1998. 八坂書房. ￥20,000（税別）.

野外植物研究会とそのユニークな会誌「野草」を永年にわたって支え，1997年に亡くなられた牧野晩成氏の追悼集である．120名を超える人達の文が，年代順，トピック順に並び，教育者としてまた植物研究者としての追憶が記されている．その合間に写真，図，作文，新聞記事，年表などが散りばめられ，製版の苦労もさぞやと思わせる非常に凝った作品に仕上がっている．編者は故人の孫で，死去のときは大学生だったが，祖父の仕事については何の予備知識もなかったという．どうやらこういうことに天職の才をもつ編者が，一から始めて作りあげたもので，最も参考になったのは前川文夫氏の追悼集だという．晩成氏が若い頃からの資料をよく整理保存していたことも，大いに役立っている．「編集後記」と称する80頁もの別冊が付随しているが，これは編集日記を含む編者の若者らしい自由奔放な発想に満たされている．牧野晩成氏の生涯の掉尾を飾る作品であり，また知識拓史氏の自分史の第一頁を飾る作品でもある．頒布についての連絡は，郵便で下記へ．

〒180-[redacted]　三鷹市[redacted]　知識拓史

（金井弘夫）

□堀込静香（編）：**沼田　眞・自然との歩み－年譜／著作総目録**　240pp.　信山サイテック　￥5,000

堀込氏は1983年にも沼田氏の年譜・著作目録を刊行しており，それを踏まえて追補充実をはかったもので，専門の司書による一個人の書誌の見本といえる．内容は年譜，著作目録，項目索引，タイトル索引，キーワード索引である．項目索引（本書では分類項目としてある）は学問分野，地域，教育関係などの項目に分けて文献を示したもので，当然のことに生態学関係の仕分けは細かくなっている．タイトル索引は和文表題のよみによる仕分けである．キーワード索引は欧文表題の単語からひけるようになっている．これらの索引は文献番号によって著作目録と結び付けられている．和文単語によるキーワード索引ができるとありがたい．著作目録がデータベースとして供給されるようになれば，索引の作り方も変わってくるだろう．

（金井弘夫）